リレーインタビュー

矢板の未来を紡ぐ

長谷川秀夫さん（沢）
ＪＡしおのや勤務

「自分のことばかり話す人が多いけれど、長谷川さんは、まずこちらの話をきちんと聞いてくれました。ＪＡに勤めていた時の同僚で、兄貴のような人です」と、前回の大貫さんからの紹介です。

お見合いで一目ぼれしたのが、中学で同学年だった奥さま。そのご両親と、男の子３人の３世代７人同居のにぎやかな暮らし。

若い人と地域がつながる事が地域の活力を生み出す

■物心ついた時の記憶が…

四、五歳のころ、茨城の親せきの家に泊まりに行き、同い年のいとこと、その友達と一緒に遊んだのですが、最初はイヤな顔をされました。でも、こちらから話しかけるようにすると受け入れてくれました。そのことがずっと心に残っていて、大きくなってからも、自分から心を開いていくことが人とコミュニケーションを取る上で一番大事なことだと思っています。おかげで、あまり人見知りをしないで、誰とでも友達になれるようになったのかもしれません。

■三十歳でリストラ！

三十歳のころ、十二年勤めていた会社が経営不振でリストラが始まりました。退職者を募集していたのでそれに応じましたが、辞めた後すぐにＪＡのガソリンスタンドに勤めることができました。今と違ってラッキーでした。

製造業からサービス業へ。まるで違う仕事に最初は戸惑いました。ガソリンを入れるだけならできますが、仕事柄、車の構造が分かっていなければならないし、タイヤ交換など、できて当たり前のことをひとつひとつ覚える日々でした。

■自分の仕事を客観的に見る

スタンドを利用するＪＡの組合員の方は、気軽に声をかけてくれ、コミュニケーションを取るのが楽しいのですが、フリーのお客さまはどんな方なのか分からないので緊張します。たまに怒鳴られたりすることもあります。そのときはムッとしますが、あとから冷静に考えると、こっちが悪かったと思うことも。

よそに出かけた時にはつい、他社のスタンドを観察しますが、今ごろの寒い時期に、お客さまが来ない時でも外で待機しているような、サービスマンの教育が徹底しているところを見たりすると、自分たちはまだまだだなと思います。

■エルサポートに変わります

ＪＡの燃料事業は四月から、新しく（株）ＪＡエルサポートという、ＪＡと全農の共同出資の会社になります。昨年暮れに面接があり、無事に合格したので新たな気持ちで頑張りたいと思っています。

これからのスタンド事業は、価格競争がますます厳しくなります。それに勝ち抜くためには、価格以外にも独自のサービスを提供していくことが求められています。気持ち良く帰ってもらって、また気持ちよく来てもらうためには、しっかりコミュニケーションを取ることが欠かせません。

お客さまの困りごとや要望をきちんと聞いて、自分の知識だけで足りない時はほかの人や、ＪＡの組織を生かして修理部門の方に聞いたりして、お客さまに「ここに来ると安心だ」と思ってもらいたいものです。

また、組合員の皆さんが持ってきてくださる地元のいろいろな情報、例えば「どこそこのそばがおいしかった」とか、「こんな新しい店ができた」とか、そんな情報をためておいて、ときどき情報ペーパーのようなものを作ってお渡しするのも面白いと思います。これなら、よそから来られたフリーのお客さまにも、組合員の皆さんにも喜んでもらえるのではないでしょうか？

■消防団の活力は地域の活力

結婚を機に、沢の消防団に。年齢的に訓練はきついのですが、集落のおつき合いや学校などで顔を合わせる人は消防団で知り合った人が多く、つながりができて、いろいろな情報も入ってきます。子どもが大きくなるにつれ、入っていて良かったと思えるようになりました。

火事の時には、その地元の消防団が後始末をやることになっています。二次火災が起きないよう、夜中、交代で見張ったり、現場検証の後、その家の人と相談しながら片づけをしたり、その日は一日仕事にはなりません。

火事と葬式は待ったなし、でも、それが地域に住んでいるということ。消防団を維持していくということは地域の活力を維持することと同じではないでしょうか。ですから、ぜひ若い人に入ってもらいたいと思います。

■とりあえずやってみることが市民力

一人の力では、たいしたことができないなと思います。みんなの力で何かできれば素晴らしいなと…。環境整備や、ゴミ拾いなども、みんなが一緒にやるということが大事ではないでしょうか。消防団もそうですが、最初は「なんで俺が…」と思っても、自分もその一員になれば徐々に変わってきます。とりあえずやってみることから始まるのではないでしょうか。

■若い人と地域がつながっていけば

子育てしていて、近所のおつき合いは大切だなと思います。私の子どもなんか、近所のおばちゃんの家でお茶のみをしたり、遊んだりしていることがあります。おつき合いがあって知っているから、子どもも安心して遊びに行けるんですね。

私が、地域に密着した生活をしているから余計にそう感じるのか、アパートなどで暮らしている若い人が、近所づきあいをしないのが気になります。犯罪が多く、他人が信用しづらいご時世ですが、だからといって近所の人とつき合わないのは若い人にとってはとても損なことだと思います。

また、コミュニケーションの取り方が下手などと若い人たちだけのせいにするのではなく、私たち地域で長く生きてきた者が、若い人たちと地域がつながるきっかけを作ることが大事だと思います。

地域の人が若い人を受け入れるためには、まずはあいさつから始めることではないでしょうか。地域にとっても若い人たちが必要なのですから…。